

N P O 法人

子どもの虐待防止 ネットワーク・かがわ

ニューズレター No.25



みんなで広げよう！子ども虐待の予防

当会は、児童虐待防止法が制定された2000年に設立し、活動19年目を迎えようとしています。これまで「子ども虐待の予防」のために、匿名で相談できる電話相談や虐待について正しい知識を持てるように講演会の企画・運営、買い物時にホッとできる居場所づくり、育児不安を抱える母親のグループミーティング、妊娠中から切れ目のない支援を目指した妊婦や乳幼児を抱える家庭への訪問型の支援などを展開してまいりました。常に、育児の先輩として、悩んでいる人に寄り添い、その人の持っている力を引き出す支援をすることで虐待を予防したいと考えています。

その一方で、香川県子ども女性相談センターの児童虐待対応件数は、2000年度の159件から2016年度には959件と増加の一途をたどっております。また当会が活動をはじめた頃の主たる虐待者は、女親が最も多かったのですが、「子どもの面前でのDVは“心理的虐待”」とした児童虐待防止法の改正後は、DVを背景とした警察からの通告が増え、主たる虐待者は男親（実父、養父・継父等）が女親を上回っています。

“子どもの虐待は特別な人の問題ではない。私たち市民が、虐待について正しい知識を持ち、個人の問題としてではなく、社会の問題として考えていかなければならない。子どもがその国の未来を担う存在、希望の星であることからすれば、子どもの虐待の広がり、その国の未来に大きな影を落とすことになる。今、真剣に子どもの虐待について考え、行動すべきときにきている”

当会は、この思いから設立し子ども虐待の予防をするため活動に取り組んできました。しかし近年、社会や子育て環境がめまぐるしく変化しているように、会員個々にもいろいろな生活上の変化が起こっています。その中で当会は「子ども虐待の予防」の起点は変えず、地域の一人ひとりが意識だけでなく行動を変えることで、子ども虐待を予防するにはどういった取り組みができるかを考えています。「みんなで広げよう！子ども虐待の予防」このスローガンを掲げて、これまでの活動を踏まえた活動内容の再構築に取り組んでいく所存です。これからも皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ理事長 中添 和代

「子ども虐待防止策としてのデートDV防止活動の意義と課題」に参加して

子どもの虐待死亡事例における「望まない妊娠／計画していない妊娠」や「若年（10代）妊娠」のケースの割合の高さが指摘されており、その背景の一つにデートDVがあると考えられている。

NPO法人エンパワメントかながわ実施2016年全国デートDV実態調査から、10代の若者にとってデートDVが大変身近な問題であると分かった。中・高・大学生を対象に調査し、有効回答数は2,122人。1都10県の10代交際経験のある女性（771人）の43.8%が何らかの被害を受けている。「無理やりセックスをされる」「避妊に協力しない」といった性的被害も含まれており、その割合は10%程であったものの、その他の暴力との相関関係が高い。暴力被害を受けている場合は性的暴力も同時に受けている可能性が見えてきた。このことから、デートDV予防教育の意義と課題、被害者支援の対策、妊娠SOSネットワークの取組みと連携について討論された。

性教育を人権教育の一環と位置付け、「対等な関係性のもとお互いの合意に基づいて営まれる性的行為以外は性暴力であり、犯罪的行為であること」「親密なパートナー間における一方から他方への行動制限・心理的暴力・経済的暴力・身体的暴力・性暴力は、デートDVであること」を教育することが現在の被害を食い止め、将来の加害親を減らしていくといった考察が印象深い。（T）

シンポジウム「子ども虐待とエビデンスの架け橋」に参加して

児童虐待防止法等の改正により児童虐待の発生予防・早期発見の重要性がこれまで以上に強く意識され、実務家の実践が子どもの現在と将来をより良いものとするかに関するエビデンス（根拠）が有用とされている。一方で、人を支援する現場に外部からエビデンスを持ち込まれることに強い反発がある。それなりの理由に基づくものであり、有効性が示されているエビデンスを無視するのでは責任を果たしているとは言い難く、エビデンスに基づく実践は本質的に矛盾を抱える。

エビデンスに振り回されるのではなく、対象者に何が有効で今何をすべきか。私たちは、現場でエビデンスとどう向き合えばよいのかと考える機会となった。

とくに印象に残ったことは、パッケージ化されたプログラムを導入すると支援のマクドナルド化が起き、一定の質（味）・一定の支援（サービス）は保証されるが、スタッフには創意工夫や自由裁量は許されない。さらに、支援の改善／変更はすべて、「本部」の指示に基づくことになる。複合的な実践には支える環境が必要で、理論レベルと実践レベルのはざまを往復するなかで因果関係は確定するものであり、 $A=B$ としては捉えにくい。また、エビデンスは平均値に過ぎず、個別の対象者には役に立たないことがある。そのため、エビデンスの使い手が必要とされる。エビデンスによって問題を定式化し、情報収集、情報の吟味を行いあらたな行動指針が提供し、今の支援が、誰に・いつ・どこで・何が効果的かを考え、複雑で差異が微妙な支援であるがゆえに常識的な対応が望まれることである。対象者のニーズとモチベーションをより意識して、同意・アクセス・コミュニケーションすることで、より理解を深め、そこからまた新たな支援の方向性を探る。共有・評価・反省・学習つまり、考え実行し、また考えるを繰り返すことで、対象者の痛みを和らげることが支援の結果につながる。支援する側もまた支援されて育つと感じた。（K）

活動報告

－妊娠期からの家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・おりーぶ」－

(平成29年度香川県共同募金助成金 広域福祉活動支援事業)

□ 平成29年度の活動の概要

- ・5月 NHKの取材協力
- ・6月 保健師とのケース検討会に参加
- ・7月 中央エリア協議会オーガナイザー交流会を主催
- ・6～9月 高松市、三豊市、宇多津町へ活動説明および協力・支援の依頼
- ・9月 制度学習会(大阪市)へ参加(高松市・三豊市共に)
高松市保健センター 保健師研修にてホームスタートの説明
- ・11月、H30年2月 ホームビジターのフォローアップ研修を開催
- ・H30年1月 コムズフェスティバル市民企画分科会(松山市)にて実践報告
- ・3月 ホームスタート・とくしまとの交流会を主催



□ 平成29年度の訪問状況について

- ・申込み 50件(その内、妊婦さんが9件)
- ・地域 高松市(45件)、丸亀市(1件)、三豊市(1件)、綾歌郡(3件)に在住の方

－グループワーク事業「ひだまり」－

(平成29年度香川県共同募金助成金 広域福祉活動支援事業)

子育てに悩んでいる母親が安心して悩みを話せる場です。参加者が対等な立場で話し合い、悩みを共感しあうことで自助力を高め、自分の問題を自分で解決できるよう支援します。

- ・原則毎月第1土曜日 10時～11時30分
- ・参加費：母親・子ども 各100円

- ・利用者は、延97人
(母親37人、子ども60人)でした。

<担当者の声>

子どもの成長と共に母親からは、常に悩みが語られますがそれでも一つ一つ母親自身で問題解決する力が付いてきて、当会の目的が達成されつつあることを感じられ嬉しく思いました。

－地域拠点型児童家庭相談事業“子らっこ楽っ子”－

(平成29年度高松市委託事業)

- ・利用者は、554人(保護者237人、子ども317人)

内容：親子遊び 219組、子育て講座 18組、相談件数 41件、家庭訪問支援 6世帯

<担当者の声> “子らっこ楽っ子”の終了

2012年に始まった「子らっこ楽っこ」も6年が過ぎ、いよいよ終了の時を迎えました。

毎年、実施場所を転々としながらも、ご利用頂いた皆様、支えてくれたスタッフの方々、お世話になりました。こんな機会を作って下さった高松市の方々にもお礼を申し上げます。

親子で機嫌よく遊んでいる一面だけではない、子育てのしんどさを吐き出されたり、第1子で子育てに不安を抱えていたけれど「子らっこ楽っこ」に参加しながら母親として落ち着いていかれたり、義理親・実親との関係を整理されたりと、ここには親にも子どもにもたくさんの成長がありました。私にとっては、人への信頼感が増す体験でした。有難うございました。

◀ 掲示板 ▶

◀ 研修会のお知らせ ▶

- ・平成30年度当会の研修会は、現在企画中です。決まり次第ご案内します。
- ・子ども虐待防止関係機関の研修のお知らせ

月日	内容	会場	主催
2018年6月2日（土） 13：30～16：30	市民公開講座 ー子どものこころー	サンポートホール 高松第2小ホール	四国子どもとおとなの 医療センター
2018年8月 4～5日（土・日）	第10回日本子ども虐待医学会 学術集会in かがわ	サンポートホール 高松第1・2小ホー ル	日本子ども虐待医学会
2018年11月30日 - 12月1日（金・土）	日本子ども虐待防止学会 第24回おかやま大会	11月30日倉敷市民 会館, 12月1日川崎 医療福祉大学	日本子ども虐待防止学会 第24回学術集会おかやま 大会実行委員会

◀ 活動への支援 ▶

◇ 2017年度ご支援をいただいた方々です。

香川県共同募金会様 ， 株式会社タダノ様 ， 国際ゾンタ高松ゾンタクラブ様
富士ゼロックス端数倶楽部様 ， 富士ゼロックス株式会社様
オレンジリボンバッジを利用された33名の方々ほか, 12名のみな様
ご支援有難うございました。紙面をお借りし、心から感謝申し上げます。

◀ 会員募集 ▶

会員及び賛助会員を随時募集しております。ホームページからでも可能です。

- ★正会員・・・一緒に活動をしていただける方（年会費¥4,800）
- ★賛助会員・・・財政面で支援をしていただける方（年会費 一口¥5,000）
- ★団体会員・・・ 同上

お問合せは、下記までお願いします。

◀ 寄付のお願い ▶

当会の活動は会員の会費のみが定期収入となっており、事業の運営は助成金や寄付金収入に頼らざるを得ません。子ども虐待を防止するために息の長い地道な活動が期待される中での財政基盤の弱さはいつも心配の種となっております。皆様の温かいご支援を宜しくお願い致します。

<振込先> 郵便振替 01630-5-2437

<加入者名> (特) 子どもの虐待防止ネットワークかがわ

特定非営利活動法人

子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ ニューズレターNo.25 2018年3月発行

事務所 TEL：087-888-0758 FAX：087-888-1070

毎週 月曜日～金曜日（午前10時～午後5時） ※留守の場合もあります。

ホームページ：http://kcapn.sakura.ne.jp Eメールアドレス：kcapn9999@siren.ocn.ne.jp